

はじめに!

うさぎ^お追いし かの山 こぶなつりし かの川
ゆめは今も めぐりて 忘れ^{わす}がたき ふるさと



おじいさんやおばあさんは、この歌をうたうとき、子どもの時に魚をつったり、遊んだり、農具^{のうぐ}を洗ったりした故郷^{ふるさと}の川を思い出して、胸^{むね}が熱くなると言われます。ふるさとの川は、心の中でいつまでも生きています。

40年ぐらい前、家や人がふえたのにみあう下水道^{とどの}が整^{せい}わず、生活排水^{せいかつはいすい}が流れこみ、子どもも大人も近づきにくい川になっていました。

子どもたちは、絵や作文で「大和川をきれいにしよう」とうったえ、お父さんやお母さんも地域^{ちいき}の人たちとともに川のそうじをしたりしてきました。

国や市町村も人々の熱意^{ねつい}にこたえて、下水道の整備^{せいび}をすすめ、浄化施設^{じょうかしせつ}をつくり、水をきれいにする活動を応援^{おうえん}してきました。

今、大和川が「命の川」によみがえろうとしています。アユ^{さんらん}が産卵し、育っているのです。

「わたしたちの大和川」は1999年に作られました。みなさんが、大和川の歴史^{さんぎょう}や産業、自然や文化、水の汚れの原因^{げんいん}や浄化へのとりくみを学ぶのに役だってきました。10年たち、新しい資料^{しりょう}をつけ加えました。



2009年7月 飛鳥川源流

「なぜ子どもの背^せが低いのか、それは大地に近くて、自然の声がよく聞こえるようにだ」と言った人がいます。

子どものときに聞いた大和川の声、大和川と交^かわした約束^{やくそく}を果^はたせる力を身につけて成長していきましょう。「心のふるさと 大和川」の実現のために！！

こころざしを はたして いつの日にか 帰らん
山は青き ふるさと 水は清き ふるさと

